

日本神経学会学術大会 演題募集にあたって：

科学的妥当性と再現性の担保に関するお願い

本学会では、発表される研究の科学的信頼性を高め、国際的な学術水準に準拠した議論を深めるため、抄録本文（「対象と方法」「結果」）における数値情報の記載を重視しています。会員の皆様には、以下のガイドラインに基づき、より客観的で透明性の高い抄録作成にご協力をお願い申し上げます。

1. 本規定の目的

医学研究における「再現性の危機」が叫ばれる中、解析対象の規模や統計の精度の明記は、研究成果を正しく評価するための世界標準（CONSORT/STROBE 等）となっています。抄録段階からこれらを意識することは、皆様の貴重な知見が正しく理解され、将来的な論文採択や引用に繋がる重要な基盤となります。

2. 記載に関する具体事項

抄録の限られた字数内ではありますが、以下の情報を「事実」として記述に盛り込んでください。

- **解析対象数（n 数）の具体化:** 単に「マウスを用いた」「患者群を解析した」とするのではなく、比較群ごとの具体的な数（例： $n = 8/\text{group}$ ）を明記してください。
- **客観的な統計値の提示:** 「有意に改善した」等の主観的表現に留めず、具体的な P 値（例： $P = .024$ ）を記載してください。 $P < 0.05$ 等の省略表記よりも、具体的な数値の方がデータの説得力が高まります。
- **効果量と信頼区間（95% CI）:** 差の有無だけでなく「どの程度の差があったか」を示すため、平均差やオッズ比などの指標と、その精度を示す **95%信頼区間（95% CI）** の併記を強く推奨します。

3. 字数制限を遵守するためのテクニック

数値を増やすと文字数が不足する懸念がありますが、以下の工夫で情報の密度を高めることができます。

- **冗長な表現のカット:** 「～において有意な改善が認められた」を「improved ($P = .024$)」のように、記号と略記を活用して文章をスリム化してください。
- **略記の活用:** ($n=10/\text{group}$), (95% CI [1.2, 3.4]), ($P=.031$) などの表記は、世界的に共通して理解される効率的な記述法です。

査読における評価

本規定に沿った具体的な数値情報の記載は、査読における「科学的妥当性」の項目で高く評価されます。逆に、結論を導く根拠となる数値が著しく不足している場合は、内容不十分と判断される可能性がある点にご留意ください。

神経学の発展に寄与する、質の高い演題のご投稿を心よりお待ちしております。